

令和 2 年 5 月 26 日現在

機関番号：34419
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：16K01090
研究課題名（和文）日英翻訳学習者コーパスを利用したジャンルの特徴の分析とその大学英語教育への応用

研究課題名（英文）Analysis of Genre Features Using Corpora of Japanese-to-English Translation Trainees and Its Application to University English Education

研究代表者
宮永 正治（Miyanaga, Shoji）

近畿大学・建築学部・准教授

研究者番号：50467536
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日英翻訳学習者が英訳した原稿をデータとするコーパスと英文テキストのコーパスを用いて、特定のジャンル文書に特有のレトリカル構造、表現、文法などを分析し、そこから得られた知見を大学（院）生を対象とした専門分野における英語教育へ応用することを目的とした。特定のジャンル（CEOメッセージやプレスリリース）の言語的特徴を分析し、日英翻訳学習者コーパスがどのような部分で間違い、どのように間違いを修正したかを分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、特定の社会的な分野で使われる特定のスタイルの英語の文書（ジャンル文書）において、どのような情報がどのような順番で提示されるか、その際にどのような表現や文法が使用されるかを分析（ジャンル分析）する一方、日英翻訳学習者が翻訳した原稿を用いて、翻訳原稿における間違いや、どのように間違いを修正したかを分析することによって、ビジネスの場面で使われる英文文書を書く際に、日本人が間違いやすい言語的特徴を特定する。このような分析方法、および、この研究から得られる知見を大学での英語教育に応用することにより、学習者自身が誰からも教わることなく、自律的に英文ライティングの能力を向上させることができる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to analyze the rhetorical structures, expressions, and grammar peculiar to specific genre texts using corpora that consist of translation drafts made by Japanese-to-English translation trainees and those that consist of texts of the same genres originally written in English. The study is also aimed at applying the findings from such analysis to English education for undergraduate and graduate students who study in their own fields. Specifically, we examined linguistic features of CEO messages and press releases to identify what errors the translation trainees made and how they corrected the errors.

研究分野：ESP

キーワード：ESP ジャンル分析 日英翻訳 コーパス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、グローバル化の進展に伴い ESP が大学英語教育において注目を集めているが、ESP アプローチによる英語科目では英語が堪能な専門教員が担当している場合もしばしば見られ、また、EGP (English for general purposes) を教えている ELT (English language teaching) 教員は EGP から ESP へと踏み出せない状況も見受けられる。その理由として、ESP に対する誤解が根強く残っていることも考えられる。そのような誤解の一つとして、本研究の研究分担者である野口 (2009) は「ESP は専門表現や専門用語のみでとらえられる」(p. 5) ことを挙げており、日本の英語教育では発音、文法、段落構成、コロケーションまでは扱われているが、ジャンルすなわち text structure のレベルまではほとんど扱われていないと指摘している (pp. 5-6)。また、「ESP を教えるには、対象とする専門領域の専門家になる必要がある」(野口、2009、p. 6) ことも誤解の一つとして挙げられているが、もちろん、言語学およびや英語教授法の理論や知識が無ければ、言語コミュニケーションとして英語を指導することはできない。ELT (English language teaching) 教員と ESP 教員は学習者のコミュニケーション能力の向上という同じ目標を持っており (Basturkmen, 2010, p. 7) 言語教育とは伝達場面での言語の運用能力に深く関係している (Ellis, 1996, p. 74) ことから、ESP は専門科目の教員のみではなく ELT 教員によっても教えられるべきである。

これらのことから、本研究ではジャンルの概念を基礎として、専門科目の知識のない ELT 教員も使える ESP 教授法のモデルを構築することを目的とする。ここでいうジャンルとは Swales (1990) により定義され野口により発展されたもの (Noguchi, 2010) を指す。Swales (1990) によれば、ジャンルとは専門家集団 (ディスコースコミュニティ) がその共通の目的を達成するための伝達事象の類であり、野口は、ジャンルとは文書がパターン化したものであると説明している (Noguchi, 2010)。同様に、文書は文章がパターン化したものであり、文章は句や節がパターン化したもの、句や節は単語がパターン化したものであり、単語は音がパターン化したもの (Noguchi, 2010) であるので、文章、句、節、単語は各ジャンルに特徴的なものとなる。本研究では、英語運用能力が高い社会人学習者をデータソースとする日英翻訳コーパスのデータから、いくつかのジャンルとそれらの言語的特徴を分析対象として選定して分析し、そこから得られた知見を大学 (院) 生への ESP 指導へと応用することを目指した。

2. 研究の目的

近年、大学において ESP (English for specific purposes, 特定目的のための英語) が専門分野の英語教育に導入されつつあるが、それらの多くは卒業生や学部、大学教員を対象としたニーズ分析には基づいているものの、必ずしも学習者が所属する (または将来所属するであろう) 専門家集団 (ディスコースコミュニティ) で使用される「ジャンル」の概念に基づいているとは言えない。本研究では、本研究に先立って行われた平成 25 年度基盤研究 C (一般)「ESP 教授法を用いた教材作成モデルの構築」において構築された日英翻訳学習者コーパスを用いて、またそのデータを更新し、特定のジャンルに特有のレトリカル構造、表現、文法などの言語的特徴を分析し、得られた知見を大学 (院) 生を対象としたジャンルの概念に基づいた ESP 教授法へ応用することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究においては、特定のジャンルについて、学習者用に平易な英語に編集された文書ではなくて、英語で書かれて実際に社会で使われている (authentic な) 文書を用いてレトリカル構

造、頻出表現・単語、文法など、そのジャンルの言語的特徴を分析するとともに、それらのジャンル文書の日英翻訳学習者により本や高原稿の第1稿および第2稿を分析した。いかに、分析前の準備および分析方法を示す。

(1)日英翻訳学習者コーパスの整備

本研究の研究代表者、分担者および協力者が平成25～27年度基盤研究(C)で構築した日英翻訳学習者コーパスのうち、一部のジャンルのデータを整理し、翻訳データの質的および量的な分析ができるようにした。

(2)分析対象とするジャンルの選定

(1)の日英翻訳学習者コーパスのデータを分析するためには、対照となる authentic な英語の文書の分析が必要である。そのために、(1)のコーパスのデータソースとなった翻訳課題のジャンルおよび分野を整理し、言語的特徴を分析するジャンルを選定した。それぞれのジャンルは特有の言語的特徴を有するが、それらの学習者の習得における状況を観察し分析するためには、特徴が顕著なジャンルを選定する必要がある。そのためには、次の段階(3)のパイロットスタディーとして、リコール社告、謝罪のためのビジネス eメール、およびプレスリリースをジャンル文書として選び、ムーブ分析 (Swales, 1990) を行った。

(3)分析対象となる各ジャンルの言語的特徴を選定

レトリカル構造、頻出表現・単語、文法に加えて、ライティング能力の指標となる統語的複雑さ(単文、重文、複文)(Ortega, 2003)など、どのような言語的特徴を分析するか、実際に分析を進めながら検討して選定した。

(4)各ジャンルの言語的特徴を分析

(2)で選定されたジャンルの言語的特徴を分析するためには、まず、学習用に編集された文書ではなく、社会で実際に使用されている authentic な文書を収集する必要がある。(3)で選定された各ジャンルの authentic な文書を用いて、それらの言語的特徴を分析した。分析には無料のコーパス分析ツール AntConc の他、Microsoft Word、Microsoft Excel を用いた。

4. 研究成果

各ジャンルの言語的特徴の分析については、パイロットスタディーとして、リコール社告および謝罪のためのビジネス eメールのデータ(英語の記事および日英翻訳学習者の翻訳文)の言語的特徴についてコーパス分析とムーブ分析を行った。なお、プレスリリースの分析に関しては、本研究課題の補助事業期間前である2015年の分析結果をパイロットスタディーとして用いることとした。リコール社告の分析からは、日英翻訳学習者は言語が持つ文化的差異を考慮してターゲット言語の言語的特徴を取り入れつつも、翻訳成果物の目的や読者対象にも注意を払って翻訳しているとの考察が得られた(宮永ら、2016)。

さらに、翻訳原稿のジャンル分析におけるエラー分析について、ジャンルの種類に関係のないエラーと特定のジャンルに関係があるエラーに分け、前者の中でさらに grammatical、technical、lexical の3種類に分け、後者では lexical、rhetorical、semantic の3種類に分けて、プレスリリースの英訳の第1稿から第2稿への翻訳学習者自身による修正部分の分析結果を報告した(Miyanaga, Misaki, & Noguchi, 2019, March)。

また、成果の発表を行いつつ、翻訳および英語学習のアプローチについてもいくつかの発表を行った。本研究のベースとなるジャンルの概念およびジャンル分析に基づく ESP アプローチについて発表 (Miyanaga, 2018, February, b) するとともに、ESP アプローチの翻訳への応用として、ビジネス e メール の翻訳原稿を分析し、学習者によるムーブ分析、コーパス分析、クラス内の議論、および翻訳のリライトは学習者の自律性を育て、実社会の状況に応じた翻訳ができるようになるとの考察を発表した (Miyanaga, 2018, February, c)。同じ内容で、ラオス国立大学の文学部の英語教員を対象にしたワークショップを行った (Miyanaga, 2018, February, a)。翌年、ジャンル分析に基づく ESP アプローチを用いた 1) 英語科学論文のライティング指導方法 (Miyanaga, 2018, February) 2) 翻訳のためのリーディングおよびライティングのためのウェブ資料の活用方法 (Noguchi, 2018, February) 3) 効果的な翻訳のためのリーディングの 3 つの発表を行うと同時に、ラオスの民間企業においても通訳および翻訳のための ESP に基づくジャンルの意識についてワークショップを行った (Miyanaga, Misaki., & Noguchi, 2018, February)。

ESP アプローチの重要性および応用については、さらに発表を続けており、グローバルに活躍できる英語能力の育成方法としてプロジェクト発信型英語プログラムと連携したアプローチについて発表し (宮永、山下、近藤、2017 年 11 月。) ジャンルの概念に基づいた ESP 教授法の英語科学論文の読み方・書き方の指導への応用についても発表 (Miyanaga, Misaki, & Noguchi, 2018, December) および講演会 (宮永、2018 年 11 月) を行った。また、非常に早く変化している社会での英語教育の在り方を考え、ESP のジャンルの重要性を指摘した (Noguchi, 2019)。

これまでの本科研の活動全般についての報告は、研究テーマに関心を抱く参加者が多い大学英語教育学会関西支部 ESP 研究会で行った (宮永、三崎、野口、2018 年 12 月)。

References

- Basturkmen, H. (2010). *Developing courses in English for specific purposes*. London: Palgrave Macmillan.
- Ellis, R (1996). SLA and language pedagogy. *Studies in Second Language Acquisition*, 19, 69-92.
- Miyanaga, S., Misaki, A., Terui, M., & Noguchi, J. (2012, March). A genre-based approach to translator training in Japan. Paper presented at the 3rd Conference of the Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association, Los Angeles.
- Miyanaga, S. (2017, February, a). Genre-based approach to translation Part 2: Application of genre theory in ESP contexts. Paper presentation at the meeting LaoTESOL 2017 Pre-conference Workshop, National University of Laos. Laos.
- Miyanaga, S. (2017, February, b). Genre-based approach to translation Part 1: Genre theory focusing on ESP. Paper presentation at the meeting LaoTESOL 2017, National University of Laos. Laos.
- Miyanaga, S. (2017, February, c). Genre-based approach to translation Part 2: Application of genre theory in ESP contexts. Paper presentation at the meeting LaoTESOL 2017, National University of Laos. Laos.
- Miyanaga, S. (2017). Genre-based approach to translation Part 1: Genre theory focusing on ESP. *LaoTESOL Conference Proceedings: Selected Papers (2016 - 2017)*. 75-80.
- Miyanaga, S., & Misaki, A. (2017). Genre-based approach to translation Part 2: Application of genre theory in ESP contexts. *LaoTESOL Conference Proceedings: Selected Papers (2016 - 2017)*. 81-89.
- Miyanaga, S. (2018, February). An ESP approach to teaching writing of science research article abstracts. Paper presentation at the meeting of LaoTESOL 2018. National University of Laos, Laos.
- Miyanaga, S., Misaki, A., & Noguchi, J. (2018, February). ESP genre awareness for interpretation and

- translation. Paper presentation at the meeting of LaoTESOL 2018 Pre-conference Workshop. Phu Bia Mining Ltd., Laos
- Miyana, S., Misaki, A., & Noguchi, J. (2018, December). A Genre-based approach to teaching the science research article. 第1回 JAAL in JACET 学術交流集会口頭発表. 高千穂大学, 東京.
- Miyana, S., Misaki, A., & Noguchi, J. (2019, March). Raising genre awareness in a Japanese-to-English translator training class. Paper presentation at the meeting of the 54th RELC International Conference and 5th Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association Conference, Singapore.
- Noguchi, J. (2010). 工学英語への近道 : ESP with OCHA and PAIL. Retrieved from: <http://english.fsao.eng.osaka-u.ac.jp/content/ke1/2010/Orientation2010Final040510.ppt>
- Noguchi, J. (2018, February). Using Web Materials and Corpora to Aid Reading and Writing for Translation. Paper presentation at Lao TESOL2018, National University of Laos., Laos.
- Noguchi, J. (2019). Preparing our students for a rapidly evolving world. *JACET Selected Papers*, 6, 53-68.
- Noguchi, J. (2019). Transcending ESP boundaries. JALT CUE & BizCom ESP Symposium. Sept. 21, 2019. Uchida Yoko, Osaka.
- Ortega, L. (2003). Syntactic complexity measures and their relationship to L2 proficiency: A research synthesis of college-level L2 writing. *Applied Linguistics*, 24(4), 492-518.
- Swales, J. (1990). *Genre analysis: English in academic and research settings*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 野口ジュディー. (2009). ESP のススメ - 応用言語学から見た ESP の概念と必要性. 福井希一他 (編著). ESP 的パイリンガルを目指して, 大学英語教育の再定義. 大阪大学出版会.
- 宮永 正治、三崎 敦子、野口 ジュディー. (2016, October). リコール社告に表れる言語が持つ文化的差異の英訳の取り組み. 日本メディア英語学会第6回年次大会口頭発表、東京学芸大学, 東京.
- 宮永正治、山下美朋、近藤雪絵 (2017年11月). グローバルに活躍できる英語能力の周東への3つの異なるアプローチ (ESP、EAP、プロジェクト発信型) 間の連携を探る. 2017年度大学英語教育学会関西支部秋季大会口頭発表. 大阪樟蔭女子大学.
- 宮永正治 (2018年11月). ESP アプローチによる科学技術英語 (研究論文要旨) のライティング指導 : 近畿大学の事例. 第13回静岡大学教養英語講演会. 静岡大学, 静岡.
- 宮永正治、三崎敦子、野口ジュディー (2018年12月). 日英翻訳学習者コーパスを利用した ジャンルの特徴の分析と その大学英語教育への応用. JACET 関西支部平成30年度第3回 ESP 研究会. 京都.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Shoji Miyanaga	4. 巻 1
2. 論文標題 Genre-based Approach to Japanese-to-English Translation Part 1: Genre Theory, Focusing on ESP	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LaoTESOL Conference Proceedings: Selected Papers (2016 - 2017)	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shoji Miyanaga, Atsuko Misaki	4. 巻 1
2. 論文標題 Genre-based Approach to Translation Part 2: Application of Genre Theory in ESP Contexts	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LaoTESOL Conference Proceedings: Selected Papers (2016 - 2017)	6. 最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Judy Noguchi	4. 巻 6
2. 論文標題 Preparing Our Students for a Rapidly Evolving World	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JACET Selected Papers	6. 最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 宮永 正治
2. 発表標題 ESPアプローチによる科学技術英語（研究論文要旨）のライティング指導：近畿大学の事例
3. 学会等名 第13回静岡大学教養英語講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoji Miyanaga, Atsuko Misaki, Judy Noguchi
2. 発表標題 A Genre-based Approach to Teaching the Science Research Article
3. 学会等名 第1回JAAL in JACET学術交流集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮永正治、三崎敦子、野口ジュディー
2. 発表標題 日英翻訳学習者コーパスを利用した ジャンルの特徴の分析と その大学英語教育への応用 (2016年度科研課題)
3. 学会等名 JACET関西支部平成30年度第3回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoji Miyanaga, Atsuko Misaki, Judy Noguchi
2. 発表標題 Raising Genre Awareness in a Japanese-to-English Translator Training Class
3. 学会等名 54th RELC International Conference and 5th Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮永正治、山下美朋、近藤雪絵
2. 発表標題 グローバルに活躍できる英語能力の周東への3つの異なるアプローチ (ESP、EAP、プロジェクト発信型) 間の連携を探る
3. 学会等名 2017年度大学英語教育学会関西支部秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Judy Noguchi
2. 発表標題 Using Web Materials and Corpora to Aid Reading and Writing for Translation
3. 学会等名 2018 Lao TESOL Conference, Responding to Challenges of English Language Teaching for EFL Learners (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoji Miyanaga
2. 発表標題 An ESP Approach to Teaching Writing of Science Research Article Abstracts
3. 学会等名 2018 Lao TESOL Conference, Responding to Challenges of English Language Teaching for EFL Learners (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoji Miyanaga, Atsuko Misaki, Judy Noguchi
2. 発表標題 ESP-based Genre Awareness for Interpretation and Translation
3. 学会等名 2018 Lao TESOL Pre-conference Workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮永 正治、三崎 敦子、野口 ジュディー
2. 発表標題 リコール社告に表れる言語が持つ文化的差異の英訳の取り組み
3. 学会等名 日本メディア英語学会第6回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮永 正治
2. 発表標題 Genre-based Approach to Translation Part 2: Application of Genre Theory in ESP Contexts
3. 学会等名 Lao TESOL 2017 Pre-conference Workshop (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮永 正治
2. 発表標題 Genre-based Approach to Translation Part 1: Genre Theory Focusing on ESP
3. 学会等名 Lao TESOL 2017, Advancing Excellence in English Language Teaching through ICT (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮永 正治
2. 発表標題 Genre-based Approach to Translation Part 2: Application of Genre Theory in ESP Contexts
3. 学会等名 Lao TESOL 2017, Advancing Excellence in English Language Teaching through ICT (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Judy Noguchi
2. 発表標題 Transcending ESP Boundaries
3. 学会等名 JALT CUE & BizCom ESP Symposium (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	野口 ジュディー津多江 (Noguchi Judy Tsutae) (30351787)	神戸学院大学・グローバル・コミュニケーション学部・名誉 教授 (34509)	
研究 協力者	三崎 敦子 (Misaki Atsuko)		